

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	4
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	12

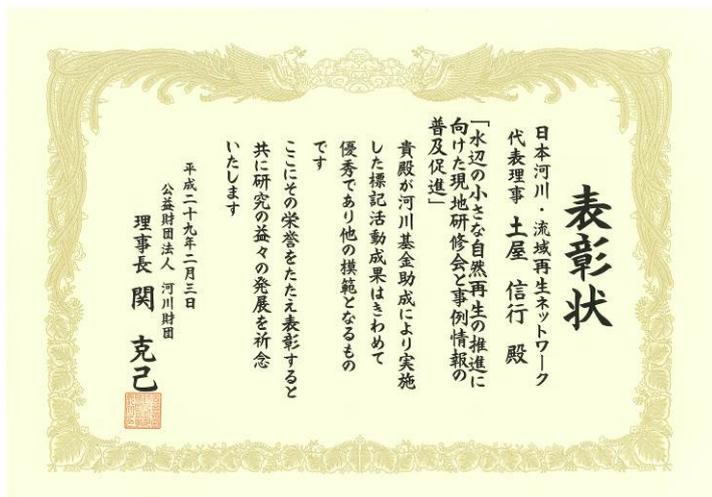
JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー 平成 28 年度河川基金優秀成果表彰のご報告

「小さな自然再生」研究会とともに JRRN が取組んだ公益財団法人河川財団の平成 27 年度河川整備基金助成事業「水辺の小さな自然再生の推進に向けた現地研修会と事例情報の普及促進」の成果が優秀であったとして、公益財団法人河川財団より平成 28 年度優秀成果表彰を受賞し、2017 年 2 月 3 日 (金) に行われた表彰式に参加して参りました。

本受賞は、JRRN 会員や「小さな自然再生」研究会メンバー、また現地研修会開催地関係者との協働の賜物であり、今後も国内外の川づくりに寄与する新たな価値を創造し、川を活かした豊かな地域づくりに貢献していきたいと思ひます。

(JRRN 事務局・和田彰)



JRRN 会員各位

この度、(公財)河川財団より助成いただいた事業が「平成 28 年度 優秀成果表彰」をいただきました。この栄誉は地道に活動していらっしゃる会員全員に等しくいただいたものです。JRRN も 10 年の節目を越え、増々ネットワークとして充実してきています。これからも、日本はもとより、世界中の河川の再生、環境の再生に取り組む方々と強く結びついていきたいと思ひます。

今回の受賞を会員全員と共に喜び合いたいと思ひます。これからも頑張りましょう。

JRRN 代表理事 土屋信行

「桜のある水辺風景 2017」写真募集開始です！

皆様が撮影された「桜のある水辺風景」の写真とメッセージについて、今年も募集します。

本企画も8年目を迎えました。沖縄から北海道まで、日本の魅力を再発見できるような素敵な桜のある水辺写真をお待ちしております。[応募〆切:5月22日(月)]

※募集案内ページ：

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/776.html>

※Facebook ページ：

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>



★ 応募概要

桜のある水辺風景 (2017年撮影の作品に限ります。)

①ご本人が撮影した写真に限ります。②一人5点まで可能です③個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。

★ 応募方法

Eメールでの応募

タイトル欄「桜のある水辺風景2017応募」とし、本文に下記応募シートの内容を記入の上、写真と共に info@a-rr.net まで送付下さい。
※合計サイズが約3MB以下となるようにお願いします。

Facebookでの応募

1. 「桜のある水辺風景」facebookページにアクセスしてください。
2. 投稿欄の[写真・動画]から写真を投稿して下さい。
3. [コメント欄]に、撮影場所(河川名など)、コメントを入力して下さい。
4. [投稿する]のボタンをクリックしてください。(完了)



★ 注意事項

①Facebookページ及び後日作成の写真集で紹介いたします。②応募作品を紹介する際には氏名も掲載します。③同一地点での類似した作品は事務局により写真集掲載作品を選ばせて頂く場合があります。④応募内容が本企画の趣旨に沿わないと判断した場合は紹介を控えさせていただきます。⑤JRRNの刊物物やウェブサイト等で使用させて頂くことがあります。⑥応募作品は返却致しません。

※応募に関する詳細情報は [こちらから](http://jp.a-rr.net/jp/news/info/678.html) : <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/678.html>

桜のある水辺風景 2017 応募シート

氏名		Eメールアドレス	
題名		写真コメント ※Facebookや写真集に掲載させていただきます	
撮影年月		撮影場所 ※河川・水辺名、地名(都道府県、市町村)	

主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

応募先・問合せ先：info@a-rr.net



(JRRN 事務局・阿部充)

小さな自然再生普及プロジェクトー「第4回小さな自然再生現地研修会 in 武庫川」開催報告発行案内 & 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！V」講演録予告

大変遅くなりましたが、昨年10月開催「第4回小さな自然再生現地研修会 in 武庫川」開催報告が完成しました。また、昨年9月に開催した応用生態工学会 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！V」講演録も3月上旬に公開しますのでご案内させていただきます。

(1)「第4回小さな自然再生現地研修会 in 武庫川」開催報告

第4回「小さな自然再生」現地研修会は、2016年10月28日(金)、兵庫県・武庫川にて開催されました。兵庫県県土整備部土木局武庫川総合治水室や武庫川づくりと流域連携を進める会をはじめとする地元関係者、川づくりに携わる実務者や研究者の方々、また「小さな自然再生」研究会メンバーなど50名超が参加し、「魚類の生息・遡上環境の改善～ウナギ石組や落差工対策」をテーマに座学と現地視察、ワークショップを実施しました。

開催報告では、座学と現地視察、ワークショップの要旨をまとめるとともに、参考資料として座学の講演資料、また、関連行事として現地研修会翌日に開催された「第5回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」の様子(ウナギなど生き物の棲み家作り)も紹介しています。

本研修に全面協力頂きました兵庫県県土整備部土木局武庫川総合治水室、及び「小さな自然再生」研究会の皆様にも厚く御礼申し上げます。

※開催報告ダウンロードはこちらから：
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

(2) 応用生態工学会 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！V」講演録

自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！V」は、2016年9月2日(金)、応用生態工学会第20回大会において開催(企画：三橋弘宗/兵庫県立大学、林博徳/九州大学、原田守啓/岐阜大学)され、約90名の参加者とともに小さな自然再生の事例を共有し、今後の更なる展開に向けた議論を深めました。

講演録では、各事例紹介の内容を発表資料とともにまとめており、当日参加頂けなかった皆様にも参考となるような内容になっています。



■ 第4回「小さな自然再生」現地研修会 開催報告
※ダウンロードはこちらから：
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>



■ 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！V」講演録
※ダウンロードはこちらから：(3月上旬公開予定)
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

なお、本活動は、(公財)河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

「川の環境情報ポータルサイト」の公開～河川環境に関する情報をより使いやすく！～

寄稿者：鶴田 舞（国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム・JRRN 会員）

川で活動する市民団体への調査結果を受け、国土交通省国土技術政策総合研究所・国立研究開発法人土木研究所では、川の環境に関わる様々な情報を一括して提供できるポータルサイトの開発を進め、「川の環境情報サイト」を公開しました。

本 Web サイトでは、国土交通省が実施している全国 109 水系の川の環境調査の結果等をマップ (WebGIS) 等から容易に検索することができます。

1. 背景・経緯

河川行政における市民との連携は、市民の持つ多様な分野の知識の活用、地域の実情を踏まえたいきめ細やかな対応、河川や地域に対する住民意識の醸成（地域固有の公共財産としての河川の重要性を認識）等、様々な意義があり、各地で環境管理、環境調査等の連携が行われています。

しかしながら連携上の課題も指摘されており、解決方法の一つとして情報共有の必要性が挙げられています。そこで国土交通省国土技術政策総合研究所（以下、国総研）と国立研究開発法人土木研究所（以下、土研）は、河川環境研究タスクフォース^{*}の取組みの1つとして、河川環境に関する市民・河川管理者間の情報共有の実態・課題を把握し、情報共有を行いやすくする環境整備として、Web による情報共有システム (<http://kasenseitai.nilim.go.jp/riverenvinfo/>) の開発・運営を行っています。

※河川環境研究タスクフォース：国総研、土研の河川環境に関係する研究者が、連携して研究や技術支援等の活動を行うことにより、河川環境に関する研究や管理上の課題の解決等その成果を高める取り組み。

2. 情報の受発信の状況、情報ニーズ

川で活動している市民団体を対象に座談会やアンケート調査を実施したところ、

- ・ 河川管理者や他の市民団体、会員等の様々な主体に対し、様々な手段（HP、メール、広報誌、電話、ワークショップ等）を用いて情報を収集・伝達している。また、対象に応じて手段を使い分けている。
- ・ 市民団体が求めている情報（例えば、環境保全活動団体は、河川改修や草刈り等の維持管理の詳細情報がほしい等）が河川管理者等の Web サイトではあまり発信されていない。あるいは情報の場所が分かりにくい。
- ・ 河川に関心を持った人が学び使える分かりやすい川の総合 Web サイトがほしい

等の結果が得られました。

3. 河川環境情報共有 Web サイトの開発

河川環境に関心を持った人がほしい情報に容易にたどり着くことができる、行政の持つ河川環境情報を客観的・総合的に分かりやすく発信することを目指し、システム設計を行いました。設計にあたっては、主な利用者として想定している市民団体の方々に、システムの機能等のニーズや意見を聴きながら進めました（NPO 法人全国水環境交流会に協力いただきました）。

4. 本 Web サイトの特徴

①情報に素早くアクセス

検索方法を4種類用意しています。マップ (WebGIS) から検索、地域別検索、カテゴリ別検索、フリーワード検索。カテゴリは、生物、水質・流量、河川管理者、川の学習、市民連携情報の5つあります。

②データを分かりやすく表示

水質・流量データについては、単なる数字の羅列ではなくグラフでデータを見ることができ、感覚的にデータを把握することができます。

③水系毎に情報を集約

全国 109 水系の流域ごとにページがあり、各河川の基礎情報が載っています。

本サイトの画面や使い方の例は、次ページ以降をご参照下さい。

5. 今後について

今後も、ユーザーの皆様のご意見を踏まえながらサイトを充実させてまいりたいと考えております。まずはアクセスいただきご活用いただけますと幸いです。

【参考資料】鶴田舞・伊藤嘉奈子・天野邦彦・岩見洋一：市民との連携・協働を促進する河川環境情報共有システムの提案，国総研資料第 793 号，2014。

<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0793.htm>

川の環境情報ポータルサイトの概要

<http://kasenseitai.nilim.go.jp/riverenvinfo/>

■ コンセプト

- **河川環境に関心を持った方が情報を入手できる総合窓口**
河川環境情報を必要とする市民（市民活動団体を主なターゲットとして設定）が本サイトを通じて、各流域の川の生物、流量、水質、学習、川づくりなどの情報を入手できる
- **河川環境に関わる各種調査結果や活動を、インターネット・WebGISを活用して分かりやすい形で市民と情報共有**
することで、河川環境行政と市民との効果的な連携・協働を進める地盤づくりに活用

■ 機能・コンテンツ

- 国土交通省実施の**生物**や**水質・流量**に関する調査結果を、**マップ**（WebGIS）から検索・データ表示
- **各地の河川管理者**が発信しているWebサイト、**川の環境学習**などに役立つWebサイト、**河川管理者と市民活動団体が連携して取り組んでいる活動**に関わるWebサイトの概要を紹介、**サイトへのリンク**

6つの情報カテゴリ

■ トップページ画面



Copyright (C) 2017 川の環境情報サイト All rights reserved.

■ 使い方 (例)

水質データを探す, グラフ表示

地図上をクリック

アイコンをクリック

ボタンをクリック

グラフ画面

水質・流量関連サイトの検索

データベースサイトにリンク

WebGISへ

Webサイトにリンク

グラフスケール・表示年の変更

市民団体 (運営メンバー) による利用例

- 調査結果の分析のため、関連データを収集する
- 活動の企画に、他の団体の実施例を参考にする

市民団体 (会員) による利用例

- 活動計画・内容・成果を共有する
- 活動に関連するデータを収集する

環境に関心のある市民による利用例

- 自然観察会などのイベントや学習施設を探す
- 植物・昆虫採集スポットを探す
- 河川管理者、市民活動団体の活動状況を知る

3月



あの日のあの川 リレー日記 ～第26話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第26話主人公 坂本 貴啓

(筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：福岡県遠賀川)

「川系男子になった日」

いつのこと？：川系男子になるまで

どこの川？：遠賀川

2月号を担当した筑後川男子の藤原君から筑後川と遠賀川の流域界を越えてバトンが回ってきたので、お隣の流域育ちの遠賀川男子としては、謹んでリレー走者を努めたい。

僕は自他ともに認める川系男子であり、大学では川系男子の他に川オタクとか川キチとか川の奇行師など自虐的な呼び名で呼ばれることも多い。ここまで僕を夢中にさせている川だが、僕はいつ川系男子になったのか、回想の世界を走ってみた。

【少年期（幼少～小学校低学年）】

遠賀川流域育ちの父と筑後川流域育ちの母を持つ僕は北九州市の街中で男三人兄弟の長男として育った。近くに遊べる川がなかったので、夏場はよく遠賀川の支流の彦山川の源流部や遠賀川に遊びに行っていた。父は昔から遠賀川や近くの小さな川でよく遊んでいたようで、僕らによく竹を切り出して浮き釣りをさせた。遠賀川の潜り橋で兄弟3人並んで釣りをしていたら橋を通りかかったおばさん達に「まあ、今晚のおかずでも釣ってるの？」と言われて子どもながらに恥ずかしい思いをしたこともいい思い出。母は実家の山でよく遊んでいたようで、水辺の薬草や溪流に棲むドンコを岩陰に追い込み、捕まえるのもお手のものだった。大抵のものは大丈夫な母が水辺でヘビを見つけた



家族でホタルを見に行った記憶

時だけは一目散に逃げ出す。恐らく僕が、唯一ヘビが苦手なのはその影響を受けたものと思われる。夏の週末は川で泳いだり、釣りしたり、バーベキューしたり、ホテルを見に行ったりとよく川に出かけた。時には夕立が来て、急に川の水笠が増えて、靴が流され、怖い思いをしたこともあった。川が楽しいばかりでなく恐ろしさを持っていることはここで感覚的に学んだと思う。

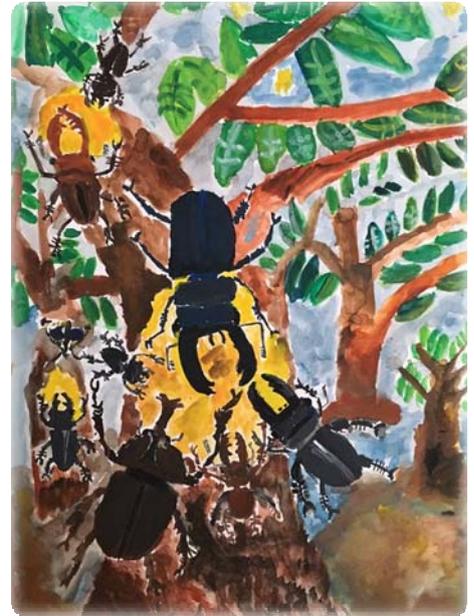
この頃、街中から田舎に出かけて普段できないことをするのが楽しくてしょうがなかったのだろう。そういう意味ではここは川系男子になった日はなさそうだ。

【野生児期（小学校高学年）】

4年生になり、街中から郊外へ引っ越した。新たに宅地開発したニュータウンだったので、まだ家はポツポツとしかなく、周りも山や田んぼ、川が多く、僕には最高の遊び場となった。新興住宅地に建設予定だった小学校はまだできていなかったので、1時間かけて田んぼ道を歩いて小学校まで通った。僕にとっては最高の寄り道コースで、空になった水筒には、田んぼの水を入れ、カブトエビやホウネンエビを捕まえて帰った（泥水水筒に母激怒）。暗くなってもなかなか帰らず、母や先生を心配させるのも日常茶飯事であった。

高学年になると、よく友達の家泊まり合うことも増えた。この頃、オオクワガタの80mmオーバーを捕まえると1千万円するという話が世間でブームになっていたので、早朝にこっそり起きだして、住宅地外の川沿いのクヌギの木によく出かけた。暗い山の中のクヌギよりも光がよく当たる川沿いのクヌギのほうが大きいクワガタがいることを、虫取り少年達は経験的に知っていた。夜明け前の薄暗い時間の川沿いは、突然どこからか野鳥の鳴き声がしたり、草影がカサカサ動いたりして薄気味悪かったが、80mmの口マンの前にはそれも我慢できた。結局、その年の夏はヒラタクワガタの65mmが最高サイズだったが、引っ越し先で街中育ちの少年は野生児へと変革を遂げた。

この頃、野生児にはなったものの、興味の中心は虫を中心とする生き物だったので、川を中心に世界が回りだすのもここではなさそうだ。



川沿いのクヌギに昆虫採集の記憶

【科学部少年期（中学生）】

中学生になり、僕の入学と同じ4月に赴任してきた担任の理科の先生との出会いが僕を科学少年にした。入学まもないある日の放課後、学校内を散歩していると妙に立体的な木の葉をみつけた。木の葉のようで、木の葉でない。どうも何かの昆虫が入っているようだが、僕の知る範囲で知っている昆虫ではなかった。これはもしかすると、とんでもない発見かもしれないと淡い期待を抱き、担任の理科の小泉先生に尋ねた。小泉先生は「おーっ！これはすごい！先生も見たことない！ちょっと先生、これ持って今から自然史博物館に行ってくる」とそそくさと学校から消えた。一少年の疑問にここまで熱くなる先生もなかなかいない。他の生徒が「先生、朝、道にタヌキが死んでたよー！」と聞けば、生徒を自分の車に乗せて案内させ、タヌキの死骸を拾いに行き、「状態のいいタヌキでした」と喜び、博物館に持っていき、はく製にする。他の先生とはずいぶん違う変わった先生で、職員室に長い時間いるのは嫌いなようで、職員会議以外はいつでも理科室にいた。

先生は次の日、登校してきた僕を見つけるなり、坂本君、あれはね、真珠蚕（シンジュサン）という蛾の蛹だったよ。」と博物館の専門の学芸員に教えてもらったことを話してくれた。「先生、この学校でも科学部を立



第4回つくばジュニア発明展(優秀賞)

ち上げるから、君、よかったら入らんかね？」と、これが自然科学との出会いだった。本当なら僕は、この数日後に剣道部に入部届を出そうと用意していたのだが、この変わり者先生についていったら面白いことになるかもしれないという冒険心が勝り、新生科学部に入部届を出した。

ここからは科学少年の日々だった。放課後になると、すぐに理科室に行き、発明工夫展の作品作りや研究をした。科学部には年に一度、科学の甲子園と呼ばれる伝統ある「日本学生科学賞」に向けて、銅メッキで銅の結晶が析出する条件を研究したり、発明工夫展に向けて、太陽光を利用した温風乾燥機をつくったりと毎晩、最終下校時間の 21 時頃まで残って研究した。21 時まで残る部活といえば、野球部と科学部くらいだった。周りからしたら、なんで科学部が？と意外だっただろうが、僕らも野球部と同じように甲子園球児だったのだ。

休日も休みなく部活に行った。休日はよく先生の車に乗り、フィールドワークをした。先生は北九州市自然史友の会の水生部会の部会長を務めていたので、友の会の会員の方と一緒に開発予定地の用水路の生物調査をした。この頃出会った学芸員の先生やホタルの研究をする大学の先生、北九州高校魚部などが僕に今まで好きに虫取りをしていたのとは違う、フィールドワークの面白さを教えてくれた。

この頃、自然科学全般に興味をもつようになり、僕になんとなく、研究者になりたいと思わせた時期だった。そういう意味でも、川に固執していたわけではないので、川系男子になった日ではない。

【青春期（高校時代）】

高校に入学し、僕は遠賀川を渡って自転車通学をしていた。中学校での部活の充実感から、再び科学部を選んだ。しかし、そこで大きなショックを受ける。科学部はあったものの、活動内容は「普段は週に 1 度集まって雑談」これを知り、ショックを隠し切れなかった。たしかに科学部はじめ、文化系のサークルの多くは文化祭などを発表の場としているため、普段の活動時間は少ないのが一般的かもしれない。

そんなもやもやとした毎日を過ごしていた最中、高校 2 年生の 10 月中旬、川の水辺館のようなものが高校の近くの遠賀川にできるといふ噂を耳にした。

2004 年 10 月 23 日、遠賀川に架かる潜り橋を渡って、川の中州にあるガラス張りの建物を訪ねた。これこそが遠賀川水辺館で、オープンフェスタの日のこと

であった。賑わうガラス張りの建物の中に入ると、いきなり「あら、あなた高校生？」と学ラン姿の少年に、青いジャケットに白いスカート、赤いブーツを履いた女性が大きな声で話かけてきた。水辺館のゼネラルマネージャー野見山ミチ子さんとの出会いだった。水辺館出会った大人達はすごかった。魚おやじ、鳥おやじ、お花の先生、野草料理研究家、美術の先生、食事担当等々、みんなそれぞれが際立っていた。大人達はこの日、「ここを君たちのホームグラウンドとして自由に使いなさい。」といった。この一言が、中学生・高校生達が川に青春を捧げるきっかけとなった。僕は毎日放課後水辺館に通うようになった。その後、水辺館で出会ったホタル少女こそが中尾さん。お互いにホタルの話題で意気投合し、当時お互い高校が違うこともあり、水辺館を拠点に高校の垣根を越えたネットワークをつくらうとはじめたのが、YNHC (Youth Natural History Club ; 青少年博物学会) でした。2004 年 11 月 3 日文化の日、これが YNHC の設立記念日。設立後はホタル少女、水草マニア、石オタク、ものづくり名人……。一芸に秀でた色んな高校生が集まってきた。僕らは学校では少し変わり者扱いされることが多かったので、結構似た者同士だった。それからの高校生活、自由気ままに色んな企画をした。星空観察会、ベッコウトンボ調査、C.W ニコルさんの課外授業、ホタル実験水路づくり、全国川の日ワークショップで愛知県に初遠征、世界子ども水フォーラム等々に企画や参加をし、高校卒業までとにかく毎日が夢中であった。普通なら、高校生の青春は部活



高校生グループの活動 (YNHC)

に汗を流したり、友達と街に遊びに行き友情を深めたり、恋愛をしたりするのが一般的なんだろうが、僕はそれが遠賀川であった。高校の先生からは「川にばかり行ってセンター試験の点数に1点も+にならないことはやめろ」とか心無いことをいう人もいたが、非行に走るわけでもなく、僕は常に真剣であった。日々変わる川の風景、川を通して色んな学びができること、そして川を通して広がる人の輪。川と人が関係しあう日常を見るのが僕は何よりも楽しくてしょうがなかった。

川のその時々、人の多様な行動それぞれが変数になり、毎日新しい川と人物語を見る事ができるのは全く飽きない中毒的な魅力があった。僕は川だけが好きなのではなく、川と人がそれぞれに絡み合っ展開されていく物語が好きなのだ。高校生ながらに思った。この時僕は川系男子になった。水辺館と出会った2004年10月23日が僕を川系男子にした。

川系男子になり、僕の将来の夢は固まった。それがどんな職業なのかまでは分からなかったが、「川と人」を元気にするような仕事をしたい。そう思い、僕は夢を叶えるための武者修行の場に筑波大学の門を叩いた。筑波大学は僕に門を開いてくれた。遠賀川を旅立った春の日、別れ際に野見山さんが僕にこんな言葉をくれた。「あなたは遠賀川の子鮭、これから大海原を泳いで大きくなっていつか帰ってきなさい。」

遠賀川しか知らなかった僕はここで色んな世界を知ることになる。それからどうなったかについては、ここでのことは別の機会(川系男子の『川と人』めぐり)に書いてみたい。

前回の藤原君も、「筑後川」の曲の歌詞を載せていたので、僕も最後に、川系男子を魅了し続けている遠賀川のことを謳った「遠賀川」を紹介して、リレーを次の走者にバトンタッチしたい。僕は3月で博士課程を修了する。次の走者は4月から博士課程に入学する。このバトンは走者のこれからの研究生活へのエールだ。

遠賀川

(詩・曲：おおがたみずお、歌：ハル)



川の流ればおだやかに 春を謳うよ遠賀川
ゆれる菜の花背比べ あなたの顔が笑ってる
夏祭り 蝉時雨 川面に浮かぶ遠花火
手をつなぎ歩こうか 君が一番好きだから



川の流れば滔々と 秋を映した遠賀川
幼い日々をたぐり寄せ あなたのことを思い出す
冬景色 踊る雪 川面に溶けて春を待つ
肩を抱き話したい 君はどうしているだろう

この町で生きて行こう ここに私の夢がある
この川と生きて行こう ここが一番好きだから



※この曲は、遠賀川の自然環境・河川環境・生活環境等のイメージを地域に広めるために、制作されました。
歌は「ハル」という地元を中心に活動을続けてこられたデュオ歌手が歌っています。

遠賀川水系彦山川
(2008.7.7 撮影)

(次は讚井知さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.94

岡村幸二 (JRRN 会員)

山の腰より清泉湧出： 大善寺境内より泉湧き 中山道を行く人の喉を潤す



撮影：2017年2月（東京都板橋区・薬師の泉庭園）

◆武蔵野台地から荒川低地へつながる崖線

この庭園は、江戸名所図会に登場した「清水薬師清水坂」を現代に復元されたものです。中山道（国道17号）のすぐ脇、静かな庭園内に泉が湧き、江戸文化のかおりを伝える四季折々の表情が見られます。

◆泉が伝える歴史の一場面

江戸時代に八代将軍吉宗が志村周辺で鷹狩りをした際に、大善寺に立ち寄り境内に湧き出す清水を誉めて、寺の本尊である薬師如来を清水薬師と命名したと伝えられます。（板橋区「薬師の泉庭園」揭示物より）

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内 (2017年3月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ミズベリング・デアイデアス

- 日時：2017年3月3日(金) 14:00~20:30
 ○主催：ミズベリング
 ○場所：東京ソラマチ5階 スペース634(東京都墨田区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2562.html>

■嘉瀬川ダム竣工5周年記念祭

- 日時：2017年3月5日(日) 10:00~16:00
 ○主催：嘉瀬川ダム感謝祭
 ○場所：「嘉瀬川ダム 水恵無限」碑前広場(佐賀県佐賀市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2566.html>

■ミズベリング越前若狭会議3rd STAGE

- 日時：2017年3月8日(水) 13:30~16:30
 ○主催：一般社団法人環境文化研究所
 ○場所：福井市にぎわい交流施設(福井県福井市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2560.html>

■第4回小水力発電シンポジウム

- 日時：2017年3月12日(日) 14:00~16:30
 ○主催：朝倉市に小水力発電を進める会
 ○場所：杷木地域生涯学習センター(福岡県朝倉市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2704.html>

■嘉瀬川交流塾 3月例会 「佐賀藩東部の水運」

- 日時：2017年3月18日(土) 13:30~15:00
 ○主催：さが水ものがたり館
 ○場所：嘉瀬防災施設 さが水ものがたり館(佐賀県佐賀市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2568.html>

■第12回川の日ワークショップ 関東大会

- 日時：2017年3月18日(土) 11:00~17:00
 ○主催：第12回川の日ワークショップ関東大会実行委員会
 ○場所：成城ホール(東京都世田谷区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2544.html>

■第192回 河川文化を語る会『恵みの水めぐる川』

- 日時：2017年3月20日(月・祝) 14:30~16:30
 ○主催：公益社団法人日本河川協会
 ○場所：ウィルあいち 3F「大会議室」(愛知県名古屋市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2697.html>

■2017年度河川技術シンポジウム

- 日時：2017年6月15日(木)~16日(金)
 ○主催：土木学会水工委員会河川部会
 ○場所：東京大学農学部 弥生講堂(東京都文京区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2521.html>

書籍等の紹介 *Publications*

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)

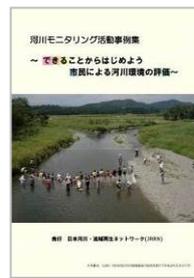
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集~できることから始めよう 市民による河川環境の評価~ (2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

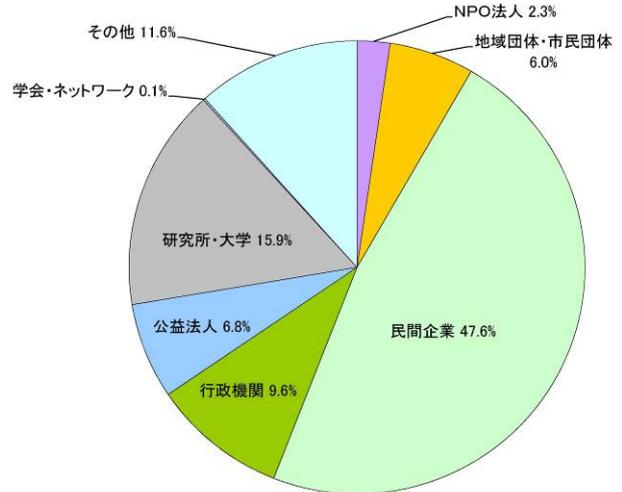
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2017年2月28日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：754名、団体会員数：61団体)

※2月の新規入会数：個人会員1、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内
Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

